

第48回 市長対談

津の海から世界へ！東京2020オリンピック

海上のダイナミックな操艇技術で自然を味方につけて着順を競うセーリング競技。今回の市長対談では、今年7月23日に開幕する東京2020オリンピックのセーリング競技男子レーザー級日本代表の南里研二さんに、オリンピックに向けての意気込みや三重とこわか国体についてお話を伺いました。

市長 南里研二選手は佐賀県のご出身で三重県スポーツ協会勤務の後、2018年から百五銀行に所属されて三重県との縁が深まりました。津ヨットハーバーでもトレーニングに励まれ、オリンピック出場の選考レースとなる2019年7月の鳥取県境港市と、2020年2月のオーストラリアのメルボルンで開催された世界選手権でいずれも日本選手トップという素晴らしい成績を取られました。しかし、それだけでオリンピック出場がかなうわけではないのですよね。

南里 出場国枠があり、選考指定大

会で、35カ国以内に入った人にポイントが与えられ、出場権が得られます。ロンドンオリンピックとリオオリンピックでは私が日本人トップだったのですが、当時40カ国以上あった出場国枠に日本が及ばず出場できませんでした。

市長 今回レーザー級は北京五輪以来3大会ぶりの出場、南里選手にとっては初めてのオリンピックになります。過去2大会で悔しい思いをなさり3回目の挑戦でついにオリンピック出場権を手にしたことで南里さんにとっては特別な舞台なのでしょうね。

南里 10年以上オリンピックを目指してきたので、今回出場が内定したときはすごくほっとしました。

市長 セーリングは世界中で盛んですが、レーザー級の種目についてご

説明いただけますか。

南里 1人乗りのレーザー級の船は他の種目と違い全て共通のパーツを使用していることもあって世界中に普及しています。こちらから船を運ばずに現地で全艇新艇をチャーターすることもできるなど、船の性能による差が少ない種目になります。

市長 純粋に選手の技量が試される競技なのですね。多くの国が参加するからには、そう簡単には勝てない種目のようですが、過去のオリンピックにおける日本勢の様子はどのような感じですか。

南里 20~30位あたりでこれまで10位以内に入った選手はいません。オリンピックに出るからにはメダルや入賞を目指したいですが、まずは日本人初の10位以内には入らないといけないと思います。

市長 2020年に開催されるはずのオリンピックが1年延期になりました。南里選手ご自身は延期が決まったときのご心情はいかがでしたか。

南里 最初は、残念な気持ちもありましたが、私は世界大会などでも30位ぐらいなので、逆に延期によって勝てるチャンス、練習ができるチャンスが広がったなと思っています。

市長 1年延期になったオリンピックと同じ年の開催になるのが三重とこわか国体です。新型コロナウイルスの感染拡大後、初めて国体が開催されるわけですが、その会場となる津の海で初めてセーリングをされたのはいつ頃でしょうか。

南里 津市では大会などがたくさん開かれていて、高校の時のミッドウィンターという寒くて雪が降るような大会が初めてでした(笑)。ただ、風はすごく良かったことを覚えています。

市長 津の海は選手から見るとどんな風なのか、どんな波なのか特徴を教えてください。

南里 いろいろなコンディションがあります。夏場は風が沖から来るので風向きは安定していて波が強く、冬場は陸から建物や山の影響で大きく風向きが変わりやすくて強い風が来ますが、陸風なので波もなく乗りやすいですね。

市長 ここではどのようなトレーニングをなさっていますか。

南里 3時間ぐらい1人で海に出て帆走したり自分で打ったマークを回って練習したり、陸上ではサオリーナのトレーニング施設を利用したりと、三重県ではほとんど1人で活動しているようなかたちになります。

市長 津ヨットハーバーは昭和50年の国体、平成元年の470級の世界選手権など大きな大会の会場となりました。選手たちに愛され活用され、地域の皆さまにも憩いの場として親しんでいただきながら、この度、伊勢湾海洋スポーツセンターも前回の国体から46年ぶりにリニューアルされました。南里選手は三重県代表としてすでに2016年の岩手国体で優勝され、来年は本拠地での優勝に向けて期待も大きくなると思いますが、三重とこわか国体に向けての意気込みはいかがでしょう。

南里 もう自分の中で国体で優勝するという事は決まっています。優勝に向けて改善を重ねながらやるべきことをやって、県民の皆さんに見せられるような良いレースにしたいです。

市長 東京2020オリンピックセーリング競技男子レーザー級は7月25日から8月1日まで、神奈川県藤沢市の江の島ヨットハーバーで、三重と



こわか国体セーリング競技は津のヨットハーバーで9月26日から29日まで4日間開催されます。わずか2カ月の間に、南里選手の勇姿が2度見られるということですね。最後に、これからの目標などをお聞かせください。

南里 オリンピック延期の理由となった新型コロナウイルス感染症の影響で今は社会全体が落ち込んでいる状態です。その中で私たちは競技をさせてもらっていますが、それにどうやって恩返しができるのかということ、やっぱり競技している姿を見て元気になってもらえるようなことをすることだと思っています。オリンピックも国体も両方良い状態で臨み、国体に関しては優勝を、オリンピックも同様のことを目指して頑張っていますので、皆さんに元気になってもらえたら良いなと思っています。

市長 2021年の南里研二選手が活躍なさり素晴らしい年となるよう、皆さまとともにこのセーリング競技レーザー級を応援させていただきたいと思っています。



東京2020オリンピック
セーリング競技男子レーザー級日本代表
南里 研二さん
NANRI KENJI

1992年佐賀県佐賀市生まれ。小学3年生からセーリング競技を始める。2014年カリビアンミッドウィンターレガッタ優勝。2016年岩手国体成年男子レーザー級優勝。2019年境港開催と2020年メルボルン開催の選考指定大会で日本最上位選手となり東京2020オリンピックの日本代表選手に選考。

競技を見てもらって
お世話になってる
三重の皆さんに元気を！



自国開催の国体輪
地元開催の国体輪
ご活躍を
期待しています

津市長
前葉 泰幸
MAEBA YASUYUKI

市長対談の全編がご覧いただけます！
MAYOR'S TV SHOW

- ◆ 津市ホームページ | 津市 市長対談 | 検索
- ◆ ケーブルテレビ行政情報番組(123ch)

